

研究・調査報告書

| | |
|---|---------------------|
| 報告書番号 | 担当 |
| 2 1 2 | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 |
| 題名 (原題/訳) | |
| Alcohol drinking frequency in relation to subsequent changes in waist circumference. 飲酒頻度と腹囲の変化との関連 | |
| 執筆者 | |
| Tolstrup JS, Halkjaer J, Heitmann BL, Tjonneland AM, Overvad K, Sorensen TI, Gronbaek MN. | |
| 掲載誌 (番号又は発行年月日) | |
| Am J Clin Nutr. 2008 Apr;87(4):957-63. | |
| キーワード | |
| 飲酒習慣・飲酒頻度・腹部肥満・腹囲・前向き研究 | |
| 要 旨 | |
| <p>背景： 断面研究では、飲酒頻度が多い方が腹部肥満の割合が少ないことが報告されている。</p> <p>目的： 飲酒頻度と腹囲の変化との関連を検証すること。</p> <p>研究方法： 1993～1997年に初回調査を行い1999～2002年に追跡調査を行った43543名の男女を対象とした前向きコホートのデータによった。初回調査時の飲酒習慣と以下の項目との関連を検討した：1) 直線回帰分析による腹囲の変化の検討、2) 飲酒量を考慮した多項ロジスティック回帰分析による大幅な腹囲増加および大幅な腹囲減少に関連する要因の検討。</p> <p>結果： 女性では飲酒頻度と腹囲増加との間に負の関係がみられたが、男性ではそのような関係はみられなかった。飲酒頻度と大幅な腹囲減少との間に関連は見られなかったが大幅な腹囲増加とは負の関連がみられた。男性では週1回未満の飲酒者を対照群とすると、非飲酒者・1週間あたり飲酒日数が1日・2～4日・5～6日・7日の群で大幅な腹囲増加みられたオッズ比は0.97・0.95・0.88・0.82・0.79であった。女性でも同様の傾向がみられた。飲酒量や総摂取エネルギー量を調整してもこの傾向は変わらなかった。</p> <p>結論： 飲酒パターンは腹部肥満と関連している可能性がある。この前向き研究では、飲酒頻度は大幅な腹囲増加と負の関連がみられ、大幅な腹囲減少とは関連がみられなかった。</p> | |